
祝！ 第50号 2011.08.09.

教育振興運動メールマガジン

「みんなで教振！」通信 ～ 今こそ“地域の底力”で立ち上がろう ～

< 目次 >

- 1 【教育振興】2学期のスタートにあたり
 - 2 【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録
 - 3 【編集後記】あつしのひとりごと
-

1 【教育振興】2学期のスタートにあたり

突然ですが、次のマイカのブログを読んで、問題に答えてみてください。

1月1日 火曜日

今年はボランティアをする年にしようと決めたんだ（マジで）。1年くらい長期の仕事をしたいの。

www.iwanttohelp.org から始めてみようと思うんだけど、このサイトを利用したことある人いる？

（問題）マイカの1月1日の日記を読み、サイトに移動して適する募集を見つけ、メールで教えなさい。メールの中で、なぜその募集が適しているかに触れなさい。

私は戸惑いましたが、皆さんはいかがでしたでしょうか。これは、2009年にOECD（経済協力開発機構）が実施したPISA（学習到達度調査）の問題でインターネット上の情報を読み取り、活用する「デジタル読解力」をみるものです。

この「デジタル読解力」調査は任意参加でしたが、参加19か国中、日本は4位と高い水準でした。日本の青少年は、ネット社会に必要な「知識」を身につけ、活用する力を持っており、社会の変化に対応している様子が窺えます。

PISAは、1997年に「新しい知識を生み出し、知識に基づいて実行し、比較し、判断し、仮定する能力を育て、明日の市民を創ること」を目標に始まりました。ここに学力競争という考えはなく、PISAの学力規定は「知識の評価」ではなく、「誰でも社会生活で使う能力を育てること」としています。

義務教育を修了した15歳が、これからの変化の激しい社会に対応できる生涯

学習者としての基礎が身についているかどうかを測るものであり、子どもたちが社会に出てからも学び続けるという生涯学習の発想を基盤にしているのです。

今、求められているのは、自分で学ぶ意識を持ち、自分で本を読み、自分で考える力を持った子どもたちを育てることです。「知識」は、しっかりと身につけさせる必要がありますが、それは最終目標ではありません。

2学期のスタートにあたり、学校と家庭では、「まなびフェスト」を確認することと思います。その際、身につけさせる学力とは何かということを確認し、役割分担をすることが学習効果をあげるポイントではないでしょうか。

学校は新しい「知識」を教え、その「知識」をもとに実行し、比較し、判断し、表現する学習を集団生活の中で展開します。家庭では、「知識」の定着を図るために必要な反復学習を家庭学習としておこないます。それが役割分担です。

また、各家庭でも、「知識」の定着だけではなく、「知識」を活用する機会として、買い物に行かせたり、ニュースを見て親子で話し合ったり、本を読んだりすることなどを意識して取り組み、大切にしたいものです。

2【教振は今】教ちゃん、振ちゃん見聞録

(振ちゃん) あのだ。この前、電力会社から「計画停電」のグループ指定のハガキが届いたけど、気になることがあるんだ。

(教ちゃん) 今日の振ちゃんは、社会派ね。

(振ちゃん) この夏、電力不足から「15%の電力削減」とか「計画停電」とか言われているけど、それぞれで使用量が違うのに、どうして一律で同じ扱いをするのだろう。

(教ちゃん) どういうこと？

(振ちゃん) ぼくの家は、ほとんどテレビを見ないし、夜11時には寝ているけれど……。テレビをつけっぱなしだったり、ゲームをいっぱいやっていたり、夜遅くまで起きている家と同じ扱いで停電をされるというのはちょっと残念な気がするんだ。

(教ちゃん) そう言われれば、そうね。

(振ちゃん) 例えば、各家庭の1日の電力使用量の上限を決めるというのはどうだろう？

(教ちゃん) なるほど。つまり、昼間に電気を使いすぎちゃうと、夜、テレビドラマのいい場面でも、電気が切れてしまう……。昔の旅館の100円テレビみたいね。

(振ちゃん) でもさ、急に電気が切れてしまうと危ないから、その使用料の上

限を超えると電気料金が倍になるようにするの。そうすれば、きっとみんなも節電すると思うんだ。テレビも本当に見たい番組だけを見たり、家庭での会話や読書の時間が増えたりすると思うよ。
(教ちゃん) 振ちゃん、古舘伊知郎さんみたい。かっこいい～！
(振ちゃん) いや、いや、いや・・・。

3 【編集後記】 あつしのひとりごと

子どもたちの権利が守られる世界を実現するために活動している「国連児童基金（ユニセフ）」が、東日本大震災津波の被害を受けた日本を半世紀ぶりに支援しています。（以前の支援は、敗戦後の粉ミルクの配給でした）
日本ユニセフ協会HP ⇒ <http://www.unicef.or.jp/kinkyu/japan/2011.htm>

岩手県では、2001年に全国10番目の「岩手県ユニセフ協会」が設立され、今年で10周年を迎えます。その記念公演が、7日（日）、NGOによる医療救援活動で発展途上国や紛争国を訪問している医師 桑山紀彦さんを迎えて盛岡市のアイーナで行われました。

桑山さんが各国で出会った子どもたちの様子を紹介した映画「地球のステージ」を見て以来、講演をお聞きしたいと思っていた方で、高2の息子と一緒に参加して来ました。2人で涙腺ウルウルさせながら、元気をいただけてきました。

7月31日（日）には、「ユニセフ・チャリティーコンサート」に出演させていただきました。昨年の弾き語りとは趣向を変え、今年はベートーベンをBGMに絵本（「いつでも会える」「ぼくがラーメンをたべてるとき」）の読み聞かせをしてきました。男子高校生が「感動したっス」と言ってくれ、それだけでやってよかった・・・と思っています。

★メルマガの感想や日頃思っていること、意見・要望をお寄せください。

⇒ 21kyoushin@gmail.com

⇒ 第51号は、8月23日（火）配信です。

★バックナンバー（第1～49号）はこちら。

⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_bn.html

★全県共通課題（家庭学習と読書推進）の実践事例はこちら。

⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_zj.html

★メルマガで紹介しました資料はこちら。

⇒ http://www.manabi.pref.iwate.jp/kyoushin/indexk_s.html

〜〜〜配信元〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

*岩手県教育委員会事務局 生涯学習文化課

*発行人：教育振興運動担当 佐藤敦士（さとう あつし）

転送はご自由です。どんどん転送してください。口コミは、あなたから始まります。「みんなでやろう！」という雰囲気をあなたから作りだしてください。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜